

社会貢献活動の推進

～目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の取り組み～

良き企業市民として地域・社会の持続的発展に貢献するとともに、自らも成長することを目的に、「安全・安心」「人づくり」「地域・社会の活性化」「環境」を重点テーマとして、経営資源（ヒト・モノ・ノウハウなど）を活かした社会貢献活動にグループ一体となって取り組んでいます。

阪神高速 未来(あす)へのチャレンジプロジェクト

阪神高速グループでは、地域・社会の持続的発展とSDGs達成へ貢献することを目的に、「阪神高速 未来(あす)へのチャレンジプロジェクト」を実施しています。本プロジェクトでは、阪神高速道路沿線で行われる公益的な市民団体の事業活動を応援しており、2025年度には8団体の事業に総額400万円の助成を行いました。今後も、本プロジェクトを通じて、地域・社会の持続的発展に貢献できるよう、明るい未来の共創に努めていきます。



第4回助成事業実施報告会

阪神高速 若手研究者助成

都市高速道路に関連する分野における若手研究者の育成を目的に、2018年度から「阪神高速若手研究者助成基金」を設け、公募のうえ若手研究者の活動を支援しています。2025年度には4件の研究に総額600万円の助成を行いました。今後も阪神高速道路を利用されるお客さまの安全・安心・快適の実現や、豊かで持続可能な社会を実現するための環境・社会問題を解決し、未来の地域・社会の発展に努めていきます。

VOICE

「関心」から「行動」へ ～ユースが動かす未来への挑戦～

地域や世界の課題（SDGs）に関心を持つ若者の「情報がない、仲間がいない」という声を受け、「阪神高速 未来(あす)へのチャレンジプロジェクト」の助成により、社会課題に取り組むユースチームを組織化しました。定例会や阪神地域で活動する市民団体へのフィールドワークを重ね、助成終了後も研修合宿や情報提供を継続し、現在は23人が登録するチームとして活動しています。次世代がつながり、学びを深める基盤づくりをご支援いただき、心より感謝申し上げます。今後もつながりを強化し、次世代とともに良い未来を創るチャレンジを続けてまいります。



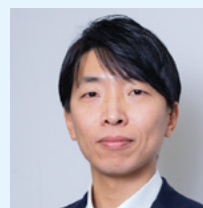
(特非)関西NGO協議会
事務局長・理事

栗田 佳典

VOICE

回帰分析を用いた人間ドライバの 割り込み目標先決定要因の解明

この度は、阪神高速若手研究者助成により温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本研究は、渋滞時の高速道路合流部における人間ドライバの割り込み運転行動を定量的に解明することを目的としております。研究遂行にあたり、実験環境の構築やデータ取得・解析に必要な研究費の確保に課題を抱えておりましたが、この貴重なご助成を賜りましたことで、本格的に研究を推進することが可能となりました。また、本研究の社会的意義をご評価いただきましたことは、研究者として大きな励みとなっております。社会に貢献できる成果創出に向け、今後も一層精進してまいります。



工学院大学
工学部機械システム工学科
准教授

WOO HANWOOL